

留学報告書

記入日: 2015年10月7日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部国際日本学科
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: カリフォルニア大学デービス校 現地言語: University of California, Davis
留学期間	2014年9月～2015年6月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2015年6月12日
明治大学卒業予定年	2016年3月



留学先大学について			
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他		
学年暦	1 学期:3月下旬～6月上旬 2 学期:10 月上旬～12 月中旬 3 学期:1月上旬～3月中旬		
学生数	35,415 人		
創立年	1905 年		
留学費用項目	現地通貨 (米ドル)	円	備考
授業料	17,995	2,069,425 円	1ドル=115円で計算
宿舍費	7,262	835,130 円	ホームステイ(\$26/日×262=\$6812)+Deposit \$300+継続費\$150
食費	約 1,350	約 155,250 円	平日昼食代+交際費(\$150×9か月)
図書費	約 450	51,750 円	教科書
学用品費	約 5	575 円	ノート、テストの答案用紙など
教養娯楽費	約 18	2,070 円	映画(約\$6×3回)
被服費		円	洋服等は現地購入しませんでした
医療費		円	特になし
保険費	972	111,880 円	形態:明治大学のもの
渡航旅費	2,000	230,000 円	HIS を通じて購入。ANA。
雑費		円	
合計	30,052	3,455,980 円	

渡航関連

渡航経路:成田国際空港～サンフランシスコ国際空港

渡航費用

チケットの種類 往復(復路の日時変更が1回のみ可能)

往路

復路

合計 230,000 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

HIS を通じて購入しました。

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍など)

ホームステイ

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数)

3)住居を探した方法:

留学先大学が紹介してくれた会社の中から Davis Housing Services を選び、利用しました。

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

UCD には留学生向けの寮がないため、出発前に自力で住むところを探すことになります。海外での長期滞在や現地に行かずに部屋を契約することに不安がある人は、ホームステイから始めることを選択肢に入れてみてほしいと思います。ホームステイを始めて最後まで住み続けたいと思えば、私のように留学終了までお世話になればいいですし、ファミリーと合わない、自分の力で生活してみたい、といったことが出てくれば、途中で契約を終了して留学途中から(周りは2学期からホームステイ→アパートというパターンが多かったです)ルームシェアを始めればよいと思います。

現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか？ 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか？

- 利用する機会が無かった
 利用した：

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

ホストファミリーか留学先のプログラム担当スタッフ

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？ その際どのように対処しましたか？

在米日本大使館からたまに危険地域情報等のメールが来るので、それをチェックしていました。Davis は犯罪率が非常に低く、夜中でも出歩くことができましたが、自転車の盗難は非常に多かったので、鍵をかけることを忘れないようにしていました。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

私が契約していたホームステイの斡旋会社は Wi-Fi を設置することを義務付けていたので、家での利用は問題ありませんでした。キャンパス内や多くのカフェでも利用できました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか？ (例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

基本的にクレジットカードでの支払いをしていましたが、ホストファミリーへの滞在費の支払いや少額のクレジット払いを受け付けられないお店での支払いは現金でした。そのため現地で銀行口座を開設し、月1回クレジットカードのキャッシングを利用しました。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

Davis にはアジア系の食材が買えるお店や日本料理屋さんがあるので、日本食には困らないと思います。日本のもののほうが質が良いな、自分に合うな、と思ったものは、化粧品や生理用品などの「自分の肌に触れるもの」。これは日本から持って行って正解だと思いました。ただ、シャンプー・リンス類は日本と水が違うため合わない可能性があることと、とても重くランクのスペースも限られているので、持っていく必要はないかと思っています。現地到着後、数日間は手続き等に追われてゆっくり買い物できない可能性もあるので、到着後数日間で絶対必要になりそうなもの(旅行用のシャンプー・リンス等)は持って行ったほうがいいです。就職活動を留学先で行う予定の人は、SPI の問題集、明治大学指定の履歴書を持っていくと何かあったときに慌てる必要がなくなると思います。

進路について

1) 進路

- 就職 進学 未定 その他:

2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

現地で、また帰国後に就職活動をするつもりで留学を決めたので、出発前に就職キャリアセンターで留学先でどのようなことをすべきかお聞きしました。また、大学3年で留学した先輩のお話も積極的に聞くようにしました。現地で大学院に進むことを考えた時期もありましたが、現地で仲良くなった大学院生や同時期に留学していた友人の意見を参考にしたり、自分が今何をしたいのか、今何をすれば将来何ができるのかを考えたりした結果、就職することに落ち着きました。

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

シール・ラベル、スマートフォンや窓に貼るフィルム、剥離紙などの、「粘着」に関わる素材を扱っている日系のメーカーさんに内定をいただきました。私が就職活動をする上で軸にしていたことが、「海外展開を積極的に行っている」「素材を扱っている」だったので、そのような会社を中心に見ていました。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。

(例：留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

声を大にして伝えたいことは、「就職活動を理由に留学を諦めるのは非常にもったいない」ということです。私は9月～6月(3年後期～4年前期)に留学、2016年卒生向けの採用活動解禁が3月だったため、日本での就職活動開始が周囲より3か月遅れました。そのため、出発前は就職活動に対する不安が大きかったのも事実です。ですが、自分が留学してみて感じたことは、①3か月の遅れは全く問題ない、②留学したことでむしろ周囲よりもアドバンテージができた、ということです。

①留学先で出会った友人の中で、かなり力を入れて現地で就職活動を行っていた人もいましたが、私はほとんど行いませんでした。ネットでの情報収集には限界があると感じ、また、留学先での勉強に集中したいと思ったからです。留学先で行ったことは適性検査のための勉強を少し、留学先で感じたこと・学んだことをまとめること(自己分析)、就活情報サイト(リクナビ・マイナビ等)のチェック、くらいでした。企業によっては、正式エントリーするために説明会参加が必須、ということもあるため、留学中の学生が参加できない、つまりエントリーすらさせてもらえない場合もあります(企業に連絡すると別のエントリー方法を教えてもらえることもあります)。しかし、私が帰国した頃にもまだ企業説明会は多く開催されていましたし、ほかにも留学経験者向けの合同説明会(東京キャリアフォーラム、マイナビ国際派就職 EXPO等)が私たちのような、「就職活動を今から始めます！」という帰国者向けに開催されていたので、就職活動開始の遅れを不利に感じたことはありませんでした。今回私が内定をいただいた企業も、この東京キャリアフォーラムで出会いました。エントリーシートや適性検査の勉強に関することへの遅れを心配する人もいるかもしれませんが、帰国後は授業がなく大学に行く必要がなかったため(これは帰国時期によると思います)、その分の時間をそれらに充てることができました。

②留学は、大きく分けて二つのアドバンテージをもたらすと思います。一つは自分自身の考え方の変化です。私の場合、留学前は自分の将来像が見えませんでした。留学を通じて自分の好きなこと、将来やりたいことがはっきりと見えました。それは留学先で出会った人たちとの交流や様々な経験を通じ、自分の価値観や考え方が変わったからだと思います。また、自身の考え方の変化は、将来について考えるきっかけになるだけでなく、いわゆる「自己分析」にもなります。企業側は「どのような考えを持っている人物なのか」を探るために、留学経験者には絶対に「留学前後での考え方の変化」や「自身の価値観を変えた出来事」を聞いてくるからです。このように、留学先での自身の考え方の変化が、就職活動をスムーズに進める手助けをしてくれたと思います。もう一つは、企業が求める人物像です。たいいていの企業が、コミュニケーション力に長け、自ら進んで行動を起こすことができ、グローバルに活躍していこうという気概がある人物を採用したいと考えています。つまり、「留学していました」と言うだけで、企業は「この人は私たちが求める人物像に合いそうだな」と思ってくれます。これをうまく利用することができれば、留学は他の就活生よりもアドバンテージになると思います。

就職活動に対する留学のアドバンテージを書いたので、欠点も書こうと思います。私が特に感じたのは、帰国後の時間的余裕がない、企業をじっくり比較検討できない、ということでした。

3月から就職活動をしている学生は、3～5月の間に数多くの企業説明会に参加して正式エントリーする企業を決め、6月はES記入・提出、7月以降は選考、というのが大まかな流れです。私は6月中旬に帰国したため、既に一部の企業説明会は終了しており、ほとんどの企業がエントリー締め切りを目前に控えていたり、説明会の開催回数が残りわずかであったり、という状況でした。つまり、他の学生にはエントリーする企業を比較検討する期間が3か月あったのに対し、私にはその期間がほとんどなく、しかも説明会に参加しながらESを提出し、さらには適性検査などの選考を進めなければいけませんでした。このような状況から、日本で就職活動をしていた学生に比べかなり圧縮されたスケジュールで就職活動を行うことになり、帰国後に「さあ自己分析をはじめよう」「私はどんな業界に興味があるのかな」などと言っている時間はあまりないかと思います。帰国前から、自分の将来についてじっくりと考えておくことが必要です。

以上、留学による就職活動への影響をまとめましたが、とにかく言えることは、就職活動に対し過度に不安にならないことです。留学したいという強い気持ち、果たしたい目標があるのであれば、留学を目指すべきです。就職活動を理由に留学をあきらめてしまうのはあまりにもったいないと思います。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。**6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。****7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。**

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)	
1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
32 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 21 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
General Psychology	心理学概論
科目設置学部・研究科	
履修期間	Fall
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	レクチャーのみ
授業時間数	1週間に110分が2回
担当教授	多数います
授業内容	心理学の概論。脳の仕組みから社会心理学、心理言語学まで、広い分野をざっくりと学びます。他の授業を履修するための必修授業であることもあり、心理学専攻だけでなくコミュニケーション専攻の学生なども履修しています。大教室で、1、2年生が多いです。多数の先生が教えているので、スケジュールや先生の好みによって取捨選択することができます。
試験・課題など	Mid3 回、Final1 回のうち、点数が高い3回のテストの点数で評価が付きます。テストは選択形式で、きちんと勉強すれば満点がとれます。先生によりますが、ほぼ毎回、学生がクリッカーで参加するクイズがあり、それが出席票代わりになります。また、心理学の実験に参加するとボーナスポイントが付きます。
感想を自由記入	私が履修したのは Seelke 教授の授業でした。とても快活な女性の先生で、授業中の学生からの質問にいつも丁寧に答えてくれました。難解な事項はとてもわかりやすく教えてくれ、楽しんで授業を受けることができました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Linguistic Analysis II	言語分析 II
科目設置学部・研究科	
履修期間	Fall
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	レクチャー、ディスカッション
授業時間数	1週間に50分が3回
担当教授	Christopher Graham
授業内容	色々な言語の分析をします。I で音韻論、II で統語論を扱います。I と II をセットで取る必要はありません。レクチャーが週に2回で、ディスカッションが1回でしたが、レクチャーで予習部分の解説及び演習問題、ディスカッションで週末課題について話し合う、というスタイルでした。教科書をきちんと読んでいれば前知識がなくてもついていきます。
試験・課題など	授業は予習前提で進むため、次の授業で扱う部分を教科書で確認しておく必要がありました。また、週末課題があったためそれを毎週こなしていました。教科書を読み授業をきちんと聞いていれば、そんなに難しい授業ではありません。
感想を自由記入	未開の地の、未知の言語を文法的に分析していく、というのは、私にとってはものすごく楽しい作業でした。授業内容的に、どうしてもレクチャーよりも実践問題の演習が多くなってしまいますが、日本語や英語とも違う文法の仕組みや、時制の分け方、考え方の違いが言語によって異なるのがわかり、とても面白い授業でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Japanese Linguistics		日本語学	
科目設置学部・研究科			
履修期間	Winter		
単位数	4		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	レクチャー、ディスカッション		
授業時間数	1週間に 80 分が 2 回		
担当教授	Nobuko Koyama		
授業内容	日本語を言語学的に学習します。レクチャーで教科書予習部分の解説、ディスカッションでグループに分かれ、演習問題を解く、というスタイルでした。Phonetics, Syntax, Semantics の 3 つを広く浅く学びます。Koyama 先生がこの授業を教えるのは初めてということもあり、毎度手さぐりをしながら授業を進めている様子で、難易度はすこし難しめでした。		
試験・課題など	授業が進むスピードがものすごく早いので、常に教科書の予習が求められました。小テストが何回か、ペーパーが 2 回、Mid と Final がありました。ペーパーでは、授業で扱いきれなかった単元について自分で学習し、授業で学んだことと合わせて自分の考えを述べる、というものでした。定義、規律、フォーマット、といったものを大事にする先生なので、評価は厳しいです。		
感想を自由記入	言語学専攻の学生、日本語を 2 年以上勉強した学生、日本語がネイティブ/ネイティブ並、以上のどれかに当てはまる学生のみが履修することができました。そのため、日本語を第二言語として学んだ学生が多く(日系の学生含め)、頻りに彼らの意見とのぶつかり合いが起きました(もちろんいい意味で、です！)。日本人としてなんとなく感覚で伝わりそうなことを彼らにどのように説明したらいいのか分からず、幾度となくふがいない思いをしましたが、その分学ぶことも多かった授業です。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Language, Gender & Society		社会言語学	
科目設置学部・研究科			
履修期間	Winter		
単位数	4		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	レクチャー、ディスカッション		
授業時間数	1週間に 80 分が 2 回		
担当教授	Julia Menard-Warwick		
授業内容	社会言語学をジェンダーの視点で考える授業です。教科書はフィールドワークをまとめたものだったため、レクチャーは教科書に出てきた専門用語の解説に終始しました。ディスカッションでは、教科書で読んだ内容を基に自分の考えや意見をペアで議論しました。		
試験・課題など	ほぼ毎回の授業で、小テストもしくは小エッセイの提出がありました。学期を通して一人一つのプロジェクトを持ち、最後にペーパーとして提出しました。これは、自分が興味を持ったコミュニティ/グループ/媒体などを、授業で学んだ知識を使いながら社会言語学的に分析するというもので、私はあるアイドルグループの「キャラ」が示す言語使用の違いについて分析しました。		
感想を自由記入	留学を振り返ってみて、つらかった授業を一つあげるとしたら、まずこの授業をあげます。というくらいつらい授業でした。Reading の量がとても多く、同時にプロジェクトを進めなければいけなく、加えてクラスメートが「できる」学生ばかりでディスカッションで心が折れ…ただ、教授とTAがとても親切で、たった一人の交換留学生にとっても親身になってくれました。クラスメートもみな優しくかったです。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Contemporary Japanese Society		現代の日本社会	
科目設置学部・研究科			
履修期間	Spring		
単位数	4		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	レクチャー、ディスカッション		
授業時間数	1週間に 80 分が 2 回		
担当教授	Janet Shibamoto-Smith		
授業内容	日本のよくある文化紹介ではなく、もっと裏の部分や学ぼうよ、核心を突くような授業です。具体的に言うと、3.11 が日本社会に与えた影響、日本の教育システム、戸籍制度、本音/建前、宗教、ジェンダーなど。人類学専攻の学生が半分(日本にあまり興味なし)、Japanese 専攻の学生が半分、だったため、ディスカッションでは、ただ一人の日本人として意見を求められることが多くありました。		
試験・課題など	ペーパーの提出が 2 回、テストが 2 回ありました。Reading の課題がとてつもなく多く、教科書の他に補助教材として論文や他の書籍のコピーが頻繁に配られました。ペーパーもテストもそれらの教材をきちんと読み理解していないと取り組むことができず、かなり大変でした。		
感想を自由記入	先生の前の旦那さんが日本人で、日本に長く暮らしていたということもあり、日本での経験や知識が豊富です。残念ながら私が受けた学期で退職されたのですが、退職後は岡山あたりに住みたいというほど日本が好きで先生でした。授業の内容としては、私も知っていることが多く、「新たに学ぼう!!」というほどのものでもなかったのですが、それよりも周りの学生との議論で学ぶことが多くあったので、そういう点で私にとっても意義のある授業でした。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Development of Memory		記憶の発達	
科目設置学部・研究科			
履修期間	Winter		
単位数	4		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	レクチャー		
授業時間数	1週間に 80 分が 2 回		
担当教授	Simona Ghetti		
授業内容	主に赤ちゃん～児童の記憶の発達に関する通説や実験、意義などについて学びました。覚えなければいけないセオリーや実験、科学者が多く、また心理学専攻の 3、4 年生ばかりなので難易度も高く、理解するのにかなり苦しかったです。		
試験・課題など	Mid3 回、Final1 回のうち点数が高い 3 回分が評価に入ります。半分为選択問題、半分为記述問題で、高得点を取るためには授業内容を理解し、以前に学習した事項とつなげたり、自分が実験結果についてどう思うか、自分ならどのように実験を行うか、などを考えたりする必要がありました。ぬきうちの小テストの答案を提出すると、正誤に関わらず出席扱いとなり、全て提出できていれば出席点が付きまます。課題の提出も 2 回ありました。その課題の一つは、6-12 歳の子供に 1 週間以前/以後の記憶/予想について尋ね、その答えを分析する、というものでした。		
感想を自由記入	つらかった授業をあげるとすればもう一つは間違いなくこの授業です。いかに覚えなければいけない事項が多く、また先生が早口なので授業についていくのも精いっぱい…何度オフィスアワーに通ったかわかりません。心理学専攻の学生ですら難解な授業だったようなので、今振り返るとこの授業を履修したのはかなりチャレンジングだったな、と思います。		

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2013年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	TOEFL iBT 受験(10月) 校内選考応募締切(11月) 校内面接(12月)
2014年 1月～3月	校内選考結果発表(1月) 留学先への書類提出、オンライン出願(3月)
4月～7月	VISA 申請、航空券・ホームステイ先手配 留学先大学から直接メールが届きはじめる(7月) →ポータルサイトの案内、アカウント作成、 履修科目登録・オリエンテーション案内等
8月～9月	履修科目登録、出国準備(8月) 出発、オリエンテーション(9月)
10月～12月	Fall(10月上旬～12月上旬)、履修科目修正 中間試験(10月下旬～11月上旬) 期末試験(12月上旬)
2015年 1月～3月	Winter(1月上旬～3月中旬)、履修科目修正 中間試験(1月下旬～2月上旬) 期末試験(3月中旬) Spring(3月下旬～6月中旬)、履修科目修正
4月～7月	中間試験(4月中旬～下旬) 期末試験(6月中旬) 帰国
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	<p>一つは、ゼミで学んでいる第二言語習得論の知識を深めるためです。国際日本学部では様々なことが学べますが、それが利点である一方で欠点でもあります。「これについて深く学びたい」と思っても、それができないことが多いからです。第二言語習得論についてもそのことが言えます。第二言語習得、言語学全般について学ぶため、留学を考えました。</p> <p>もう一つは、自分自身が持つステレオタイプを壊すためです。私は海外に長期滞在した経験がなく、外国の人々をマスメディアを通じて得たイメージだけで判断していました（アメリカ人は太っている白人など…）。大学で多くの留学生と接するうちにそのステレオタイプを壊したいと思うようになり、様々なバックグラウンドを持った人が集まるアメリカに行きたいと思うようになりました。</p>
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	<p>語学力に関してはどれだけ準備しても足りないと思うだろうな、とっていたので、せめて自分のできる準備の全てをして出発しようと考えました。私の場合、9月下旬の出発だったので、夏休みの間にできるだけ英語に触れる機会を作り、人と話したり、一人の時はつぶやいたり、TOEFL iBTの教材でリスニングやライティングの問題を解いたりしました。特にリスニングは講義の場面の問題が役に立つかな、とと思ってよく聞いていましたが、留学してから、「先生であってもあんなにきれいな英語でしゃべってくれないんだ」と気付きました。そのため、出願に十分なスコアを取った後は、きれいな英語ばかりが出てくるTOEFLの教材よりも、普通の人がしゃべる英語(Podcastや海外のドキュメンタリードラマ/映画がおすすめで)を聞いた方がよかったな、と思いました。</p>
この留学先を選んだ理由	<p>前述の通り、私は第二言語習得論についてより深い知識を得たい、自分が持つステレオタイプを壊したい、とあって留学しようと決めました。そのため、様々なバックグラウンドを持つ人が集まり、様々な第二言語習得の形があるであろうアメリカ、特に移民が多く移り住むカリフォルニアを選びました。カリフォルニア大学デイビス校は、デイビスというとても静かな小さな町にあるため、勉強に集中できる環境が整っているということと、クォーター制のため、最大3学期間留学できるということも、この大学を選ぶ決め手になりました。</p>
大学・学生の雰囲気	<p>カリフォルニア大学デイビス校があるデイビスという町はとても静かで、親切な人が多いような気がします。犯罪率も非常に低く、とても暮らしやすい町です。そのような雰囲気が相まって、学生も「都会の大学生！」というよりは、おとなしく、根が真面目な人が多いと思います。また、名門UCのうちの一つということもあり、勉強や自身の将来に対し真摯に向き合う学生が多いことも印象的でした。一日の勉強時間が5、6時間を超えるという学生もざらで、かといって競争心があるというわけでもなく、「みんなで次のテストを乗り越えよう」と勉強会を開き、知識をできるだけ多くの人と共有しようとする学生が多かったです。</p>
寮の雰囲気	<p>交換留学生向けの寮はありません。アパートでルーム/ハウスシェアをするか、ホームステイをするかの二択になるかと思います。私はフィリピンからの移民のご家庭で、留学期間を通じてお世話になりました。ホームステイ先の雰囲気はご家庭により異なるので言及は避けますが、友達の中には最初の1学期だけホームステイ、残りの2学期間はルームシェアという子も多かったため、自分のライフスタイルやその時の状況によって住む場所を変えることができるのも、ここでの留学のいいところだと思います。</p>
交友関係	<p>やはり最初は無理をしてもパーティーやお誘いに積極的に参加するのがいいと思います。その中で徐々に気が合う友達が見つかると思うので、最初は億劫でも色々なことにチャレンジしてみるべきです。私自身は、最初の学期に日本語の授業のお手伝いをしたり、バドミントンクラブに参加したりしたことによって、日本に興味があったり、共通の趣味を持っていたり、同じ非英語話者として気が合ったりする子と仲良くなることができました。</p>
困ったこと、大変だったこと	<p>やはり勉強が一番大変でした。現地の学生に負けたくない、オールAをとって帰りたい、という気概を持って出発しましたが、今までの勉強法(教科書理解、レジュメの暗記)だけでは高得点がとれないということに途中で気が付きました。特に専門的な知識が必要な授業になると、それまでに学習した知識とつなげることができるか、学習したことに基づいて自分の言葉で考えを述べるができるか、等のことが要求され、それまで以上の勉強時間が必要になりました。また、どうしても自分で解決できないことが多くなったので、教授やTA、クラスメートとできるだけ考えを共有していました。</p>

学習内容・勉強について	第二言語習得論の知識を深めたいと思い留学したので、言語学や心理学の授業を中心に履修していました。それぞれ広く浅い知識はありましたが、専門的にしっかりと学んだことはなかったので、それらを専攻として学んでいる学生が当たり前知っていることも一から学ばなければなかったのが、少し大変でした。それでも、教科書を読みこみ、授業を聞いて、それでも理解できないことは教授やTA、クラスメートに尋ねるとみな親身になってくれたので、分からないことを分からないままにするのではなく、その時その時にきちんと理解することが大切だと思いました。
課題・試験について	課題も試験も、現地の学生と同じものを提出し同じ基準で評価されるので、現地の学生よりもたくさん勉強しよう、という気持ちで勉強しました。ほとんどの授業で細かな英語のミスは考慮されず(とは言ってもペーパーのフォーマットやアカデミックライティングには厳しいのでそれなりのレベルは必要です)、かといって交換留学生だからと評価を甘くするわけでもなく、提出したものを他の学生と同じように見てくれたのは非常にありがたいことでした。そのため、頑張れば頑張っただけそれなりの評価が返ってきましたし、自分自身の自信にもつながりました。
大学外の活動について	バドミントンクラブに週1回程度参加していたので、そのクラブで出会った友達と練習時間以外にも練習したり、ご飯を食べに行ったりしました。また、授業でお世話になっていたTAさん(大学院生)の研究をお手伝いする機会もいただいたので、そのつなぎりで他の大学院生を紹介してもらい、ご飯に行ったり、研究発表会を聴講したりしました。
留学を志す人へ	留学する目的、現地でやりたいことを明確にしてください。留学を考えた時に、絶対に留学でしかかなえられない目標ややりたいこと、絶対に今留学しなければいけない理由を見つけてください。 留学と言うと華やか、毎日楽しい、のようなイメージをする人も多いかと思いますが、実際は「生活」です。学校と家の往復だけで終わる日がほとんどです。勉強しかしていない日もあるかもしれません。「今日何もなかったな」と思う日もあるかもしれません。そんな日が何か月も何か月も続きます。目標ややりたいことが明確でないと、そのような日々がただ徒に過ぎていき、結局授業で指示された課題や試験をこなす毎日留学生活が終わります。受動的な留學生活になってしまいます。しかし、現地でやりたいことを明確にしておけば、空き時間にそれをするだけだってできるし、勉強や対人関係で悩んでいるときも「頑張ろう」と思うことができます。また、後で留學生活を振り返って、「私留學生先で無駄な時間ばかり過ごしてたなあ」、なんて後悔することはありません。目標を達成するために能動的になることができ、意味のある日々を送ることができます。このような理由で、留学を志す皆さんには、留学の目的を明確にすることから始めてほしいと思います。

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業	授業	授業	授業	授業		ホストファミリーと教会へ
	勉強	勉強	日本語 チューター	勉強	勉強	図書館	
午後	授業	授業	授業	授業	授業	図書館	ホストファミリーと昼食
	勉強/ オフィス アワー	勉強/ オフィス アワー	友人と おしゃべり	勉強/ オフィス アワー	友人と おしゃべり	図書館	勉強
夕刻					クラブ活動		勉強
夜	勉強	勉強	勉強	勉強	ホスト ファミリーと 映画鑑賞		ホスト ファミリー、 ハウスメイト とおしゃべり